

大臣官房 秘書課
人事企画担当

千葉 翔子

CHIBA Shoko

[令和2年入省]



現在の業務内容

財務省では、「財務省再生プロジェクト」という組織風土改革に関する取組を行っており、私の所属する大臣官房秘書課人事企画担当がこのプロジェクトの本部に位置付けられています。同プロジェクトでは、コンプライアンスの確保に向けた取組を中核としつつ、組織理念の浸透・実践、人材育成、働き方改革・業務効率化、コミュニケーションの向上・強化といった視点から、様々な取組を推進しています。同プロジェクトを通して、財務省がより風通しの良い職場となり、職員一人ひとりが能力を最大限発揮できるよう、上司や他部署と連携しながら日々業務に取り組んでいます。

9時30分 出勤時

私の1日は、7時頃に起床して始まりです。勤務開始時間の9時30分に万全の体制で仕事を始められるよう、余裕をもって登庁します。家庭の状況や業務の計画により、フレックスタイム制を活用することで勤務時間を調整している職員もいます。登庁後は、まずメールとその日の予定の確認をします。前日の退庁後に作業依頼がきていることもあるので、依頼内容と期限を確認し、優先度に応じて速やかに予定の再整理をした上で、計画的に業務に取り掛かります。



18時15分 退庁前

明日は年次休暇を取得し、温泉でリフレッシュする予定のため、明日までに対応すべき案件は今日中に処理し、その他の案件は休み明けにどのように対応するか計画を立てます。状況に応じて上司や同僚に案件を引き継ぐこともあります。その場合は、引き継ぎを受けた側が困らないよう、現在の状況と対応要領を丁寧に説明することを心掛けています。職員インタビューの原稿化に文字起こしソフトを活用して効率的に業務を進めたことで、この日は定時に退庁することができました。

神保町で古本屋巡り!



プライベートの
過ごし方

ひとりで休日過ごすときは、ジムに行って身体を動かしたり、近くのカフェで読書をしたりすることが多いです。この日は、読書好きの大学時代の友人と一緒に古本屋で有名な神保町を訪れ、古本屋巡りや愛読する物語の聖地巡礼をして、有意義な時間を過ごしました。日頃の疲れをリセットするためにはひとりの時間も大切ですが、社会人になると、友人と過ごす時間も貴重になってきます。入省当時に比べて、最近は友人との時間を大切にするようにしています。

10時00分 午前

人事企画担当では、週に1回、係ミーティングを行い、各メンバーが現在担当している業務とその進捗状況について簡潔に共有します。様々な業務を各メンバーが並行して行っているため、誰が何をいつまでに行う必要があるのかを互いに把握することは、チームとして円滑に業務を進める上で非常に重要です。今回のミーティングでは、人材育成の一環で実施している英語研修について、実施事業者や受講する職員の調整状況を共有しました。何か問題が生じた際にチームで迅速に対応できるように、些細なことでも日頃から情報共有するように心がけています。なお、この日は上司がテレワークであったため、オンラインでミーティングを実施しました。

12時00分 昼食

財務省には食堂が3か所とコンビニがあり、多くの職員が利用しています。また、財務省周辺(霞ヶ関・虎ノ門)には、様々なジャンルの飲食店がたくさんあり、いつも多くの人で賑わっています。お昼休みの過ごし方は人それぞれ、日によりけりですが、この日は同僚たちと一緒に外にランチに行きました。職場とはまた違う雰囲気で、よりフランクな話題で盛り上がりやすい。適度にリフレッシュしてから、気持ちを仕事モードに切り替えて午後の業務にも取り組みます。



13時00分 午後

午後は、毎月発行している省内広報誌に掲載するため、職員インタビューを行いました。財務省は、地方支分部局(財務局・税関)と外局(国税庁・国税局)を含めると、全体で約7万3,000人が働く大きな組織であるため、広報誌における職員紹介は、同じ組織の下でどんな職員と一緒に働いているのかを知ってもらう良い機会になります。このほか、各職場が独自に実施している業務効率化やコミュニケーション活性化の優良な取組を広報誌で紹介し、財務省全体がより魅力的な職場になるよう促していくことにも取り組んでいます。継続的な発行で誌面がマンネリ化しないよう、上司と相談しながら新しい企画を考えたり、写真やデザインにこだわったりと、とてもクリエイティブな業務です。



理財局
国有財産調整課
宿舍予算係

曳野 晃太

HIKINO Kota

[令和5年入省]

理財局 総務課
文書係

落合 祐太

OCHIAI Yuta

[令和6年入省]

メンター制度とは

新規採用者が1日でも早く職場の雰囲気馴染み、不安なく働いていけるよう、年齢が近い先輩職員が指導役(メンター)となり、新規採用者(メンティー)に対して指導・助言を行う制度

メンティーからみたメンター、またメンターからみたメンティーについて教えてください!

落合 曳野さんはとても頼れるメンターです! 7月の異動で曳野さんと部署が離れてしまい、直接顔を合わせる機会は以前より少なくなりましたが、そのような中でも、チャットなどで気軽に質問をしやすい雰囲気を作ってくさるので、安心して業務に取り組んでいます。メンターはただ仕事のやり方だけを教えてくれる存在ではなく、“なぜこの業務を行うのか”“どのように行動したら業務をスムーズに進めることができるのか”など、仕事への向き合い方まで教えてくださる存在でもあります。

曳野 そう言ってもらえると嬉しいです! 落合君には良いと

ころがたくさんありますが、特に素直なところが素敵だと思います。理財局の対外窓口として他部局との中継地点となる落合君の係には常に多くの情報が届くため、迅速かつ正確な対応が求められます。そのような中でも、落合君は持ち前の素直さを活かし、一度指導されたことはすぐに吸収し、的確に業務を進めており、その姿には毎度驚かされます。また、1年目ながら周囲の職員から「落合君、頑張っているね!」という声をよく聞くので、メンターとしてとても嬉しいです!

落合 そんなに褒めていただけると照れますね。(笑)ありがとうございます!

メンター制度を経験してみて、いかがですか?

落合 曳野さんは、定期的に面談の機会を設けてくださり、仕事だけではなくプライベートも含め、さまざまな相談に乗っていただいています。入省1年目かつ社会人1年目の私ですが、特段不安なこともなく、前向きに仕事と向き合い過ごせているのは、メンターの曳野さんのおかげだと思っています!

曳野 現在は「メンター」という立場になりましたが、私も入省1年目のときに「メンティー」として、この制度を経験しました。その際、私自身が「メンターの先輩に何度も助けられた」とい

う思いが強かったため、いざ自分がメンターになった際には、落合君から「気軽に頼っていいんだ」と安心感を抱いてもらえる存在になることを意識していました。メンターになったことで、「先輩として、後輩にどう寄り添うべきか」を考えるきっかけになり、1年目とは違った形で成長できたと感じています。

落合 私も来年には後輩ができ、先輩職員になるので、曳野さんのような頼れる先輩を目指します!



最後に、財務省を志望する方へメッセージをお願いします!

曳野 このパンフレットを手にとっている方の中には、志望する就職先について悩んでいる方もいらっしゃると思います。私は、就職先を決めるうえで、「どのような業務に携われるか」という点と同じくらい、「どのような人と一緒に働くのか」という点も大切だと思っています。実際に2年間働いてみて、財務省が素晴らしい職場だと自信を持って言えるのは、人として尊敬できる職員の方々と一緒に働くことができているからです。職場に馴染めるか不安に思う方もいるかもしれませ



んが、財務省にはメンター制度をはじめ、職場全体で温かく迎え入れてくれる雰囲気があります。皆さんを財務省でお待ちしています!

落合 私も最初は、財務省の業務は責任が重く不安を感じていましたが、実際に説明会で職員の方からお話を聞き、親しみやすい雰囲気やチームワークを発揮している様子に触れるうちに、その不安は期待へと変わりました。財務省には、パンフレットだけでは伝えきれない魅力がたくさんあります! ぜひ一度説明会に足を運び、職員の生の声を聞いてみてください!

研修制度

必要な知識を 習得するため

財務省に入省するためには、法律や経済学の知識などが不可欠、そのように思われている方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。確かに、財務省職員は多種多様な業務に携わっており、そこで向き合う課題の解決には様々な知識や経験が必要となってきます。

しかし、誰しもが入省当初から、それらの課題に、一人でまたは確実に対応できる力

を持っているわけではありません。財務省においては、公務員・財務省職員として必要な知識を習得するための基礎研修、語学研修などの業務を行う上での基礎力を高める研修、役職や政策分野別などそれぞれの時勢・役割に応じた研修など、様々な研修を実施しており、実務で得る知識や経験に加え、課題への対応力をより一層向上させるための環境が整っています。



西ヶ原研修合同庁舎
（東京都）

入省後、西ヶ原（東京都）の研修合同庁舎にて、全国の財務局で採用された職員と、約2か月間の合同研修を行います。この研修では、国家公務員としての基礎知識や財務省職員として必要な専門知識等を習得することだけでなく、一定期間研修所での共同生活を送ることにより研修生間の連帯感を培うとともに、集団内の個人の立場や役割を学びます。

基礎研修について

各種研修・自己啓発について

職場に配属された後も、役職・業務に応じた研修や、自己啓発意欲を高め、業務に関連する知識や技能を習得するための研修等、安心して業務に取り組めるよう、充実したサポート体制が整っています。

役職・業務に応じた研修

係員

各職場において実務研修を実施。基本的な法律や事務の流れ等、実務上必要な基礎知識を補う。

係長

政策に関する知識を深め専門性の向上を目的とした実務研修や、コミュニケーションスキル等指導者としての能力を高める研修を実施。

課長補佐

マネジメント等管理職員に求められる能力及び資質を高める研修を実施。

これらのほか、渉外事務に従事する職員に、個人の会話能力に応じたレベル別の語学研修や英文によるビジネス文章の書き方を習得するための語学研修等を実施。

自己啓発

職員の能力開発と業務遂行能力の一層の向上を目的として、学習意欲のある職員に、ファイナンシャル・プランニング技能検定や簿記検定等、各資格試験等の受験をサポートする研修を実施。（通信研修）



国際局 開発機関課
開発機関第一係

井 咲乃

I Sakino

〔令和2年入省〕

実務に直結する研修制度

語学研修について

私が所属する国際局では、国際会議への出席や海外の関係者とのやり取り、国際機関が発行するレポートを読む際など、英語を使う機会が日常的にあります。私は、学生の頃は英語に対して少し苦手意識さえありましたが、英語を駆使して国際舞台で活躍する上司や先輩の姿を見て、「自分もこうなりたい!」と思い、語学研修の受講を決めました。また、国際局では海外の国際機関等に出向する機会があることを知り、いつか海外で働く経験を得たいと考えたことも、研修を受講する大きなきっかけ

となりました。

財務省では、目的別やレベル別にさまざまな語学研修が用意されていますが、私は、業務に関するテーマを題材にして1日25分、ネイティブ講師と話すオンライン英会話講座と、国際局が独自に実施しているライティング講座を受講しました。どちらも「仕事で使える」ことに特化していたため、実際に仕事で直面するシチュエーションを想定しながら学ぶことができました。

研修を受講してみて

前述の海外勤務の希望が叶い、私は入省3年目に、米国ワシントンD.C.にある国際通貨基金(IMF)の日本理事室に出向しました。それまで、海外へは旅行で遊びに行ったことがあるだけで留学など長期滞在の経験はなかったため、不安と緊張を抱えてのスタートでしたが、財務省の語学研修を通じてネイティブと話す機会を毎日つくっていたため、海外の方と話すハードルはだいぶ下げられていたと思います。また、海外では、上司や同僚と仕事の話をする前に、天気や週末の過ごし方等のスモールトークから始めることが多いですが、毎日の英会話講座も同じよう

に始まっていたため、日本との違いにも戸惑うことなくすぐに慣れることができました。

帰国後も、業務においてチームへの貢献度を高められるよう、語学研修の受講を続けており、業務と語学学習の双方のモチベーションアップに繋がっています。





働く環境の整備

財務省が進めている「オフィス改革」とは、単に内装を変えることなく、「職員の働き方を変えること」です。既存の執務室に対する固定観念から離れ、時代にふさわしい仕事のやり方や働き方を追求し、効率的な働き方をする事で高い成果を上げることができるよう、機能的な執務環境に改善することを目指しています。

また、各部署の執務室だけでなく省内共有設備の改善も行っています。例えば、省内に、ボックスシートや円卓を導入し、気軽に打ち合わせなどに活用できる空間を整備しています。

さらに、テレワークの際には、契約している民間事業者のサテライトオフィスを利用することができます。サテライトオフィスには、個別型ブースもあり、オンラインミーティングを行うことも可能です。都内各所のほか主要な地方都市にも拠点があるため、出張中に利用することもできます。



働きやす

財務省では働きやすい環境づくりを実現

い財務省

するため、様々な取組を実施しています。

フレックスタイム制と 退庁予定時間カードの設置

職員の柔軟な働き方を支援する制度として「フレックスタイム制」があります。フレックスタイム制とは、公務の運営に支障が生じない範囲において、定められた勤務時間数の総量を変えずに、1日の勤務時間及び休憩時間の長さを日によって変更できる制度です。

また、財務省では各職員のデスクに退庁予定時間カードを設置しています。職員の退庁予定時間や勤務状況(テレワーク、出張、休暇など)が他の職員からも一目で確認できるため、業務上の連携がスムーズになることに加え、自ら目標の退庁時間を掲げ、上司や同僚に示すことで、目標退庁時間に向けて業務を効率的に進めようとする意識の向上にも繋がっています。



1on1ミーティングの実施

心理的安全性(*)が担保された信頼関係の構築と、職員の成長支援を目的として上司と部下の「1on1ミーティング」の実施を推奨しています。自身の目指すキャリアや今考えていることを定期的に上司に共有でき、きめ細かいサポートを受けやすい環境が整備されています。

(※)心理的安全性:組織全体の成果に向けて、だれもが率直に意見を言い合い、また、質問しても安全だと感じられる状態のこと。



財務省における女性職員の割合は増加してきており、今後は、その活躍を図るための積極的な対応が求められます。また、こうした女性職員の活躍の視点に加え、優秀な人材の確保、心身の健康の維持、広い視野に立った政策立

案、次世代の社会を担う子どもの育成環境の整備を可能にするためには、男女を問わず職員全体について、仕事の質と能率性の向上、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を確保できる働き方を実現していく必要があります。

育児関係

妊娠～出産まで

- 妊娠中：通勤ラッシュを避けて登庁できる**通勤緩和・業務軽減等**、妊娠中の女性職員の負担を減らす制度があります。
- 出産時：**産前休暇**（産前6週間前）、**産後休暇**（出産の翌日から8週間）が与えられます。
- 出産後：子どもが3歳に達するまでの間、**育児休業**を取得できます。



男性職員も育児関係の休暇が取得可能

妻の出産に付添うための「**配偶者出産休暇**」や、妻の産前産後休暇期間中に「**育児参加のための休暇**」を取得することができます。また、育児休業等を取得することもできます。

復職後 仕事と育児を両立するため、勤務時間を短縮できる制度があります。（※男女ともに取得可能）

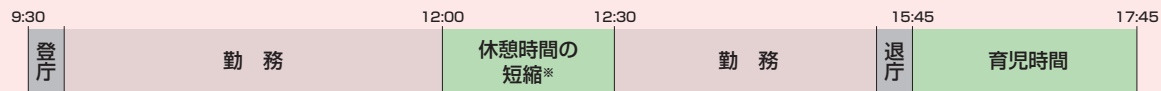
- **育児短時間勤務**：子どもが小学校に入学するまで、勤務時間を短縮できる制度
- **育 児 時 間**：子どもが小学校に入学するまで、1日につき2時間以内で勤務しないことを認める制度



その他の支援制度も充実

上記以外にも**保育時間**（子どもが1歳になるまで授乳や託児所等への送迎のため与えられる休暇）や、**子の看護等休暇**があります。

復職後の勤務時間の例／大臣官房秘書課 Aさんの場合



※休憩時間の短縮 … 妊娠中・小学生までの子どもの養育・家族の介護をする場合、休憩時間を短縮することを認める制度。

介護関係

配偶者、父母、子、祖父母、孫、兄弟姉妹等の介護を行う職員が取得可能な制度があります。

- **短期介護休暇**：年5日（要介護者が2人以上の場合は年10日）
- **介護休暇**：通算して6か月の期間内において、必要と認められる期間
- **介護時間**：連続する3年の期間内において1日につき2時間以内

その他

- **配偶者同行休業**（外国で勤務等をする配偶者と生活をともにするための休業制度）
- **年次休暇、夏季休暇、結婚休暇、忌引休暇** 等

時間と場所にとらわれない働き方 ※一定の条件を満たすことにより、以下の制度を利用できます。

- **テレワーク**（在宅勤務）
- **フレックスタイム制**（職員が自身の勤務時間を割り振ることができる制度）

私生活を大切に した働き方



主計局 司計課
司計第五係長
染谷 隼
SOMEYA Hayato
〔平成29年入省〕

3人の子どもが誕生する際、それぞれ「配偶者出産休暇」と「育児参加のための休暇」を取得し、妻の出産をサポートすることができました。特に、次女は里帰り出産ではなかったため、妻が入院している間の長女・長男の育児を私1人で行う必要がありま

したが、これらの休暇制度を活用して無理なく対応することができました。また、長女と長男が誕生した際には1か月間の育児休業を取得し、妻と一緒に子どもとじっくり向き合い、かけがえのない時間を過ごすことができました。

育児関係休暇等を取得するにあたって

男性の主な育児関係休暇制度には、配偶者出産休暇（最大2日）、育児参加のための休暇（最大5日）、育児休業（最大3年間）があります。私は育児休業を2回、それぞれ1か月間取得しましたが、上司から取得を勧められたことがきっかけとなり、同僚の温かい支援が背中を押してくれました。特に長女誕生時は休暇や育児休業の制度を十分に理解していなかったのですが、制度について上司から丁寧な説明

を受けるとともに育児休業の取得を勧められ、また、同僚も私が不在の間の業務を快く引き受けてくれたので、安心して育児休業を取得することができました。2回目の育児休業は1回目とは異なる部署で取得しましたが、その際も同じように上司からの勧めと同僚の理解・協力がありましたので、組織全体に育児関係休暇等の取得促進の取組が浸透していることを実感し、とても有難く思います。

育児をしながらの働き方について

業務繁忙期は帰りが遅くなることもありますが、そんな時でも保育園への送りは私が行うようにしています。保育園に送り届ける時間によっては、通常の始業時間（9:30）に間に合わないこともありますが、その際にはフレックスタイム制を活用して始業時間を遅らせることで対応しています。

一方で業務閑散期は、積極的に年次休暇を取得し家族との時間を大事にしています。妻も同じ財務省で働く職員ですが、フレックスタイム制や育児

時間等の制度を活用して育児と仕事を両立しています。子どもはよく体調を崩すので、看護や通院が年間を通じて頻繁にあります。子の看護休暇を利用し、妻と協力して対応しています。

仕事への取り組み方やライフスタイルは一人ひとり違いますし、また状況によって変わるものですが、財務省では、私生活も大切にしたい多様な働き方を実現することができます。

育児関係休暇等の取得状況

- **令和元年8月**
長女誕生
・配偶者出産休暇
・育児参加のための休暇
・育児休業
- ↓
- **令和3年7月**
長男誕生
・配偶者出産休暇
・育児参加のための休暇
・育児休業
- ↓
- **令和6年3月**
次女誕生
・配偶者出産休暇
・育児参加のための休暇



Q1.自己紹介

中島 国際局調査課外国為替室の中島悠人です。入省7年目で、現在は「外国為替及び外国貿易法」の運用や、ウクライナ侵攻に伴うロシア制裁に関する事務を行っています。学生時代は心理学を専攻していました。

馬塚 理財局国債業務課長期国債係の馬塚元希です。入省5年目で、現在は日本国債の発行事務を担当しています。週2回実施される入札を経て、毎月6回ほど日本国債を発行しています。1回の発行規模が2兆円に上ることもあるため、日々緊張感をもって業務に取り組んでいます。学生時代は経済学部でしたが、経済学よりも法律を多く学んでいました。



原本 主計局総務第一係の原本真由です。入省3年目で、現在は総務省の予算を査定する業務を行っています。予算編成は、8月末の概算要求から1月中下旬に政府予算案を国会に提出するまで続き、長丁場で大変な時期もありましたが、職場の雰囲気非常好く、楽しみながら予算査定業務を経験することができています。学生時代は馬塚さんと同じく経済学部でしたが、私はちゃんと経済学を学んでいました。(笑)

盛山 大臣官房会計課契約第二係の盛山桃花です。入省2年目で、現在は財務省が業務を行うために必要となる事業者等との契約、例えば財務省の管理する庁舎の安全確保を警備会社に依頼する契約などに関する手続きを担当しています。学生時代は法学部で民事訴訟法を専攻していました。

Q2.公務員を目指したきっかけ・財務省を志望した理由

馬塚 正直私は、就職活動を始めた頃は、自分自身の中でやりたいことが明確にはありませんでしたが、就職活動を進めるうちに世の中の役に立つ仕事がしたいと思うようになり、公務員を目指しました。その中でも財務省を志望した決め手は、採用担当の方々の人柄ですね。初めは財務省に対して堅いイメージを持てていましたが、説明会で採用担当の方がフレンドリーに接してくださり、そのギャップに惹かれました！また、就職活動中は誰も仕事に対する不安を抱えると思いますが、職員の方が「財務省はチームで仕事を進めていく。皆で課題を乗り越えていくから、心配なくても大丈夫。」と話されていて、一人きりではなく、皆で支え合い課題を乗り越えていく業務スタイルに魅力を感じましたね。

越えていく業務スタイルに魅力を感じましたね。原本さんは最初から公務員を志望していたの？

原本 いえ、私は人と話すことが好きなので、元々は民間企業で営業の仕事に就くことを目指していましたが。就職活動を進めるうちに、自分自身が本当に仕事の軸としたいのは「誰かの役に立つこと」であると気づき、国民の生活基盤を作る国家公務員を目指すようになりました。その中でも財務省を志望する決め手となったのは、幅広い分野の仕事に携われるという財務省ならではの魅力と、職員の方々の雰囲気や人柄です。他省庁や他機関の説明会にも参加しましたが、「この人たちと一緒に働きたい！」と一番思えたのが財務省でした！

Q3.やりがいを感じた業務

中島 以前、理財局国庫課デジタル通貨係に所属していたとき、CBDC(中央銀行デジタル通貨)

言っていただきました。加えて、「しっかり情報が整理されていて、良い説明でした！」と上司からフィードバックをいただき、嬉しい気持ちとともに、自分の考えが業務に反映されたことで大きなやりがいを感じました！

馬塚 それは嬉しいね！中島さんもおっしゃっていましたが、財務省は、若手のうちから様々な経験を積めるところに魅力を感じます。また、上司から心強いサポートを受けることができるし「良かったよ」とフィードバックをいただけることも多いので、より高みを目指して未経験の業務や難しそうな業務にも取り組むモチベーションにも繋がりますよね！

Q4.職場での働き方と職員との関わり

原本 丸1日の休暇はもちろんですが、午前休暇を取って午後から出勤したり、午前午後でレ

若手職員座談会

大臣官房・主計局・理財局・国際局で働く入省2・3・5・7年目職員に、財務省を志望した理由や実際の働き方などについて聞いてみました。



馬塚 省内全体で計画的な年次休暇の取得が推奨されていますが、私の部署でも月1日以上年次休暇を取得することが推奨されており、上司からも「次はいつ年休とる？」と聞いていただけるので、休暇を取得しやすい環境にあります！例えば、来週は平日午後に休暇を取得して、休日だと混んでいるテーマパークに行く予定を立てています。仕事と趣味をうまく両立させて、充実した社会生活を過ごしています。

盛山 平日のテーマパークいいですね！会計課でも仲の良い職員同士で定期的にランチや飲み会

とができます！また、馬塚君の話にもありましたが、財務省にはチームで課題に取り組む風土があります。入省にあたって不安もあると思いますが、上司・先輩をはじめサポートしてくれる職員がたくさんいるので、安心して飛び込んできてもらえればと思います。

馬塚 将来どのような仕事がしたいのか、自分は何に適性があるのか、と学生の時にはたくさん悩みました。皆さんも説明会に行ったり、ホームページを見たり、先輩から話を聞いたり様々な情報に触れるかと思いますが、ぜひ自身の直感を信じてみてください。私自身、「一度きりの人生なのだから、目いっぱい挑戦できる環境に身を置きたい」という当時の直感を信じてよかったと感じています！

原本 中島さんもおっしゃっていましたが、財務省では幅広い分野の業務を担当しています。だからこそ、やりたいことが決まっていなくても受け入れられる職場だと思っています。少しでも



理財局 国債業務課
長期国債係
馬塚 元希
MAZUKA Genki
[令和2年入省]



主計局
総務第一係
原本 真由
HARAMOTO Mayu
[令和4年入省]



国際局 調査課
外国為替室
中島 悠人
NAKAJIMA Yuto
[平成30年入省]



大臣官房 会計課
契約第二係
盛山 桃花
MORIYAMA Momoka
[令和5年入省]

うした機会に他の部署に所属する同期の近況や未経験の業務内容なども知ることができ、企画してくれる同期にはいつも感謝しています！

中島 そういえばちょうど先日、原本さんの同期にあたる後輩が、国際局係員の飲み会を企画してくれて参加してきました！私の方がいくつも先輩なのに、後輩に企画してもらっています。(笑)後輩たちが活躍している話を聞くと、「自分ももっと頑張らなくては！」と刺激を受けますね。国際局に限った話ではありませんが、業務の中で困難な課題があれば、決して担当者任せにするのではなく、関係者の皆で一緒に対応策を考えようという雰囲気があります。周囲の人からのアドバイスを踏まえながら対応策を検討していくので、より精度の高い仕事につながりますし、学びの機会にもなると感じます。理財局の馬塚君はどう？

に行ったり、休日には一緒に旅行に行ったりしています。休暇も取得しやすく、「年間15日以上取得しよう」と上司が言ってくくださるので、昨年は15日以上取得することができました！繁忙期でも、「皆で調整して時間単位でも休暇をとりながら、仕事を進めていこう！」と声を掛けてくださるので、皆さんがおっしゃるとおり、業務の繁閑問わず休暇を取得しやすい環境にあると実感しています。

Q5.財務省を志望する方へメッセージ

中島 財務省には予算編成だけでなく、様々な業務があります。本省一般職として採用されると、係員のうちは様々な部局を異動して多様な業務に携わり、自分に合った仕事を見つけるこ

財務省に興味を持っていたいた方は、ぜひ説明会にお越しいただけると嬉しいです！

盛山 学生のときに「このような方々と一緒に働きたい！」と思って志望した財務省ですが、当時憧れを抱いていた職員の人柄と、実際に入省してから共に働いている職員の人柄にギャップはありませんでした。ぜひ説明会にお越しいただいて、財務省職員の人柄に触れていただきたいと思います！財務省でお待ちしております！



劇的
変身

財務省職員のビフォーアフター



Before



After

理財局 管理課
野口 友菜
NOGUCHI Yuna
[令和元年入省]

ここが変わった!①

「就活生」から「社会人」へ

就職活動が終わって入省してから、しばらくの間はリクルートスーツに黒髪をまとめて出勤していましたが、社会人経験を積んでいく中で、場面に応じて適切な髪型や服装を選ぶことはもちろんですが、先輩職員のコーディネートも参考にしながら、好みのヘアスタイルや、オフィスカジュアルなど自分が好きなファッションで出勤しています。爪も短めですがネイルを楽しんでいます。パソコンに向かって仕事をすることが多いので、ふとした時に指先が目に入ると気分も仕事のモチベーションも上がります!実際に職員がどんな格好で仕事をしているのか気になったら、ぜひ一度、財務省に足を運んでいただければと思います。

ここが変わった!②

マイホームで二児を子育て

私生活にも大きな変化がありました。入省2年目で結婚するとともに車を購入、4年目でマイホームを購入し公務員宿舎から引っ越して、6年目の現在は2人の子どもと家族4人で暮らしています。車とマイホームの購入は、働き始めてまだ数年の私達夫婦にとって大きな決断でしたが、車は大荷物の買い物や休日の家族でのお出かけに活躍しており、マイホームは子どもが走り回れる広い部屋を確保できるなど、どちらもとても満足のいく買い物でした。学生時代には想像もしていなかった、忙しくも楽しい日々を過ごしています。



Before



After

近畿財務局 管財部
管財総括第二課
横田 冴介
YOKOTA Sasuke
[平成30年入省]

ここが変わった!①

ゴルフで健康維持と交友関係の拡大!

入省して以来、デスクワークが中心の生活となり、運動不足を感じるようになりました。そんな中、同じ部署の先輩からゴルフセットをいただいたことをきっかけに社会人の嗜みの一つとしてゴルフを始めました。最初は興味本位でしたが、休日に打ちっぱなしへ行くうちに楽しさを感じるようになり、現在は出向先の同僚と一緒にコースを回るなどゴルフにどっぷりハマってしまいました!楽しみながら身体を動かして心身の健康を維持し、同時に交友関係も広げることができる、社会人ライフを豊かにする趣味となっています。

ここが変わった!②

オンとオフはサウナで切り替える!

社会人としての日々を過ごす中で、仕事と私生活、オンとオフの切り替えが大事だと感じていましたが、世間のブームの影響を受けてすっかりハマった週末のサウナ通いが気分転換には最適だと気付きました。健康ランドに足繁く通い、高温サウナで汗を流したあとは衝撃的に冷たい水風呂で心身を一気にリセット!大阪にも魅力的なサウナ施設が多く、新たな環境でもサウナを通じて心身を整え、公私ともに充実した日々を過ごしています。

おしえて!
財務省あるある!

1 省内で迷子になりがち!

財務省の建物は、上空から見ると漢字の「日」のような形をしています。どの廊下も同じような景色で、慣れるまでは執務室や会議室の場所を覚えるのも一苦労ですが、迷ってもグルッと一周すれば目的地にたどり着けるのでご安心を!



2 帰省するときに財務省のお土産買いがち!

財務省内のコンビニエンスストアでは、「お札せんべい」や「壱万円札タオル」など、通貨行政を担う財務省ならではの土産がズラリ。帰省する際のお土産として親しまれています。



お札せんべい



壱万円札タオル

3 食堂のメニューが豊富で迷いがち!

財務省には、3つの食堂があります。メインの食堂に加え、サラダバーのある食堂と中華を楽しめる食堂があり、毎日違うメニューが登場!今日のランチは、どこで食べる!?



唐揚げ定食

レバニラ炒め定食

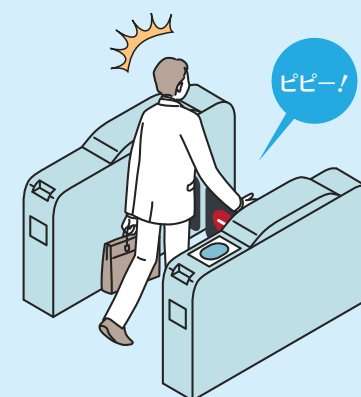
4 旅行先で同期と会いがち!

入省後すぐに行われる基礎研修は、全国の財務局で採用された同期と合宿形式で実施されるので、共同生活を通じて一気に仲が深まります。研修終了後も変わらず交流が続き、旅行の際には全国各地にいる同期と会うこともしばしば!?



5 セキュリティゲートで引っかかりがち!

財務省に入る際にはセキュリティゲートを通過する必要がありますが、急ぎすぎると引っかかることも…。スムーズに通過するためには、急ぐ気持ちを抑え落ち着いて一旦静止するのがポイントです!



Q1 財務省を志望した理由はなんですか？

A1 説明会に参加したときの職員の方々の雰囲気の魅力を感じました。決して楽な仕事ではないとめらう気持ちもありましたが、職員の皆さんの誇りと責任感を持って働く姿勢に感銘を受け、「自分もこうありたい！」と思い、最終的に財務省を志望しました。

A1 幅広い分野の業務に携わることができるからです。異動するとまるで転職したかのように業務内容が変わることもあるようですが、そこでしか得られない経験や視点があるのではと感じています。多様な業務を経験しながら、自分の可能性を広げることができる点に魅力を感じ、財務省を志望しました。



Q2 職場・課内の雰囲気はどうですか？

A2 オンとオフの切り替えがしっかりしている、メリハリのある職場だと思います。業務中は、一人ひとりがその責任を自覚し集中して働いていますが、一方で、業務が一段落した際には息抜きに雑談をすることもあり、世代の違う職員同士でも風通しの良さを感じます。

A2 上司や先輩とも話しやすく、若手職員も積極的に意見を出しやすい雰囲気があります。課内で定期的に行っているミーティングでは、役職に関係なく双方向のコミュニケーションを取ることができます。また、仕事で困ったときは、近くにいる同僚を頼ると丁寧に教えてくださるので、安心して業務に取り組んでいます。



令和6年採用職員

令和6年採用職員9名に、就職活動時のことや

Q4 入省してから成長していると思う部分はどんなところですか？

A4 入省当初は、自分に届いた情報や作業依頼を担当部署に早く振り分けることだけで精一杯でしたが、今では、スピード感をもった処理に加えて、自分で調べて情報を補足することや、作業を依頼する相手に丁寧な説明をすることも意識できるようになりました。

A4 英語を再び学び始めたことです。私の担当する業務では、一般的なビジネス英語に加えて専門的な英語も使用するため、語学力を更に向上させる必要がありました。財務省は語学研修の制度も充実しているので、それらも活用しながら自主的に勉強に励んでいます。



Q5 入省前と入省後にギャップがありましたか？

A5 入省1年目は指示を受けて行う単純な業務が中心かと思っていましたが、自分で主体的に進める業務が意外と多いことに驚きました。責任の重さを感じますが、上司や先輩のサポートのおかげで「チャレンジしよう！」という気持ちになります。

A5 想像していた以上に休暇が取りやすい環境で驚きました。普段から上司が休暇の取得を促してくれるため、気兼ねなく休暇を取得することができます。フレックスタイム制やテレワークを活用した多様な働き方も推奨されていて、プライベートと仕事の両立を実現することができる職場だと感じます。

Q3 大事なことを仕事にしていますか？

A3 常に先のことを見越して計画的に仕事を進めることを意識しています。期限ギリギリに慌てて作業をすることになると、余裕がなくなり、普段しないようなミスもしてしまうため、スケジュール管理には気を付けています。



からのメッセージ

入省してからの1年間を振り返ってもらいました。

Q6 上司や先輩からの言葉で印象に残っているものはなんですか？

A6 「数字の前には必ず人がいる」という言葉です。財務省の使命は、お金の流れを通じて社会をより良くし、人を幸せにすることです。国民の利益を常に考えながら、国のお金に関する数字を扱う仕事に取り組んでいこうと思います。

A6 「他人事ではなく自分事で物事を考える」という言葉です。入省当初は目の前の業務をこなすことで精一杯でしたが、この言葉を受けて、例えば周囲の職員の会話にもアンテナを張り、自分の仕事への影響を先回りして考えるなど、仕事に対するスタンスがより積極的なものに変化したと思います。



Q7 財務省を志望する方へメッセージをお願いします。

A7 財務省には、スケールが大きく責任を伴うやりがい溢れる仕事がたくさんあります。どれも国民生活に直結する重要なものばかりです。若手職員のうちから「国の根幹を支えている！」という実感をもって働けるのが財務省の大きな魅力です。財務省でお待ちしております！

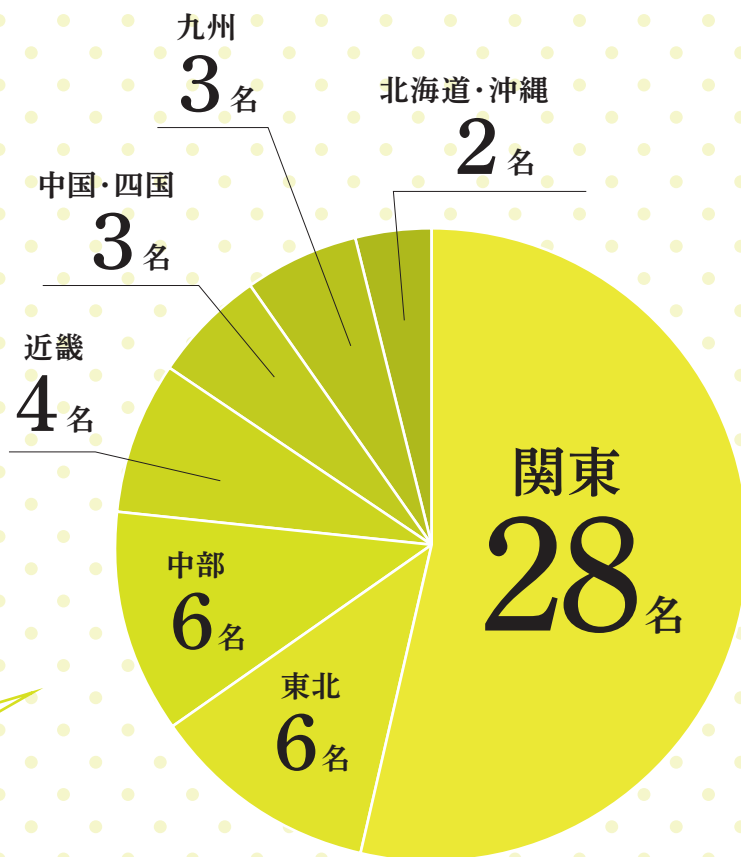
A7 財務省には、パンフレットだけでは伝えきれない魅力がたくさんあります。私は学生時代、地方に住んでいたため、対面の説明会に参加するのはハードルが高かったのですが、それでも実際に足を運んだことが財務省を志望するきっかけとなりました。財務省に少しでも興味があれば、ぜひ説明会にご参加いただき、職員の生の声を聞き、人柄や雰囲気を感じてください。



数字でみる財務省

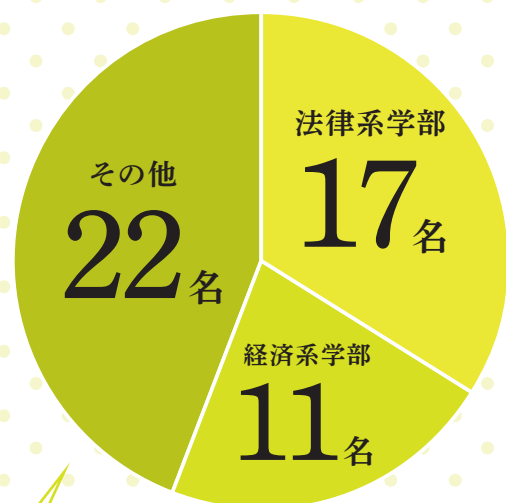
若手職員の入省前の経歴・入省後の生活・働き方、財務省を選んだ最終的な決め手について、入省2年目から7年目までの職員(平成30年度～令和6年度入省)計52名に、アンケートを行いました。

Q1 出身地を教えてください。



半数近くが**地方出身者**です!

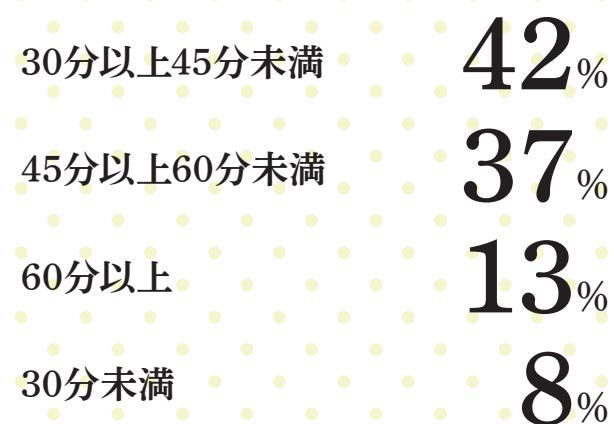
Q2 大学の学部を教えてください。
(※専門学校卒は除く)



人文科学系学部や理系学部など、**出身学部関係なく採用**しています。



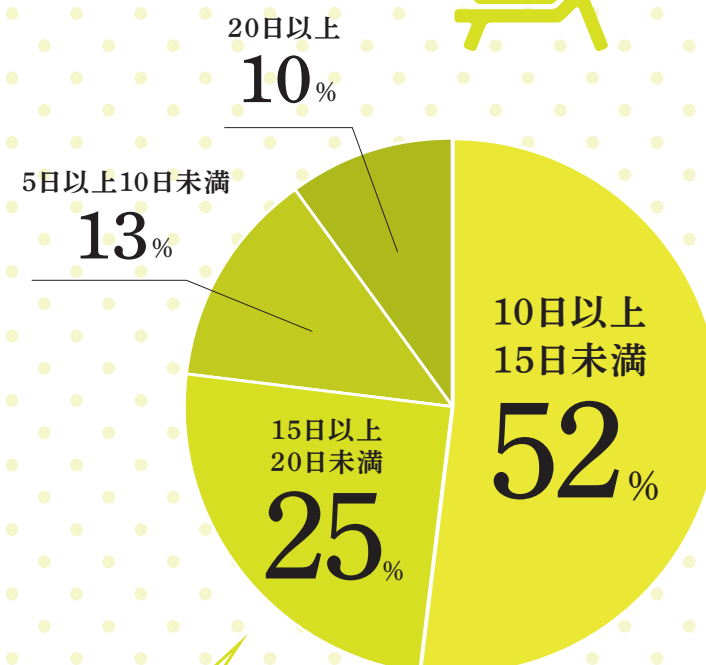
Q3 通勤時間を教えてください。



Q4 現在の住居形態を教えてください。



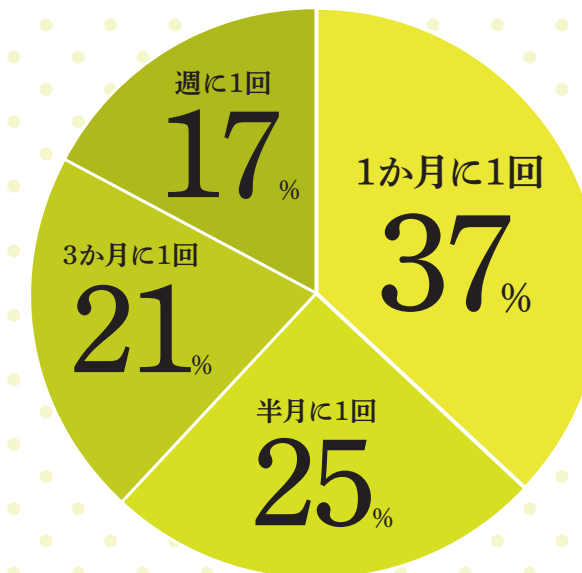
Q6 年間休暇取得日数を教えてください。



9割近くの職員が**月に1回程度**休暇を取得しています!



Q5 職場の同僚や同期と飲み会や食事に行く頻度を教えてください。



職員それぞれに合ったペースで、同僚や同期との交流を楽しんでいます。



Q7 最終的に財務省を選択した決め手を教えてください。

